

Contents

Activities	1
Business Angle	2
Information	3
Activities	4

【事務局】 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-37-4 友田三和ビル3F  
TEL 03-3296-0769 FAX 03-3296-0779 URL <http://www.ajec.com/>

## Activities

### ◆ 編集制作プロダクションフェア開催 第2回「日本編集制作大賞」を选考

世界30か国から770社が出展した「第14回東京国際ブックフェア」が、7月5日(木)～8日(日)に東京国際展示場(東京ビッグサイト)で開催され、日本編集制作会社協会(日編協)が後援する「編集制作プロダクションフェア」も同時開催されました。

日編協では、1996年から東京国際ブックフェアに参加し、編集制作プロダクションフェア内に出展する協会ブースで、会員社がエントリーした「我が社の一冊」を展示するほか、会員ガイドや入会案内、会員社のパンフレットなどを配布し、協会ならびに会員社のPRに努めています。

今回の編集制作プロダクションフェアには、(株)アルク出版企画、(株)エディット、(株)オフィス201、(株)カルチャー・プロ、(株)タカオ・アソシエイツ、(株)パルス・クリエイティブ・ハウス、(株)群企画、(有)木杏舎など、会員社8社が個別出展し、ブースを自社制作の書籍などで彩り、積極的な営業活動を展開しました。

#### ◆ 第2回日本編集制作大賞

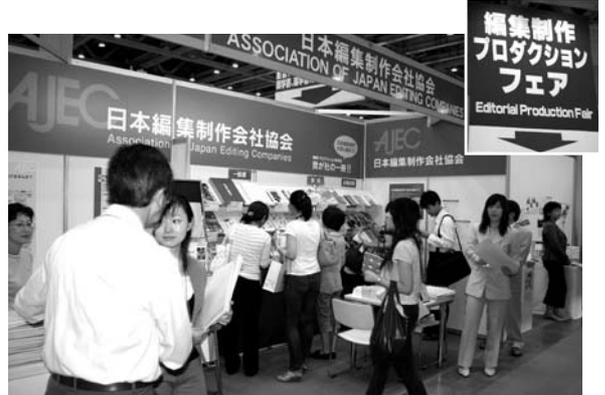
日編協では、編集プロダクション業界の理解促進と地位向上を目的に、2006年より「日本編集制作大賞」を創設。東京国際ブックフェア内の協会ブースで展示した「我が社の一冊」の中から、一般書、教材、企業出版の各分野ごとに優秀な作品を選んでもらう顕彰制度を実施しています。

选考対象は、会員社が編集制作に携

わり、「我が社の一冊」として展示できるものなら、単行本、雑誌、教材、ムック、PR誌、カタログ、会社案内など、何でも構いません。选考方法は、「クオリティ」「スキル」「ルーチン(継続性)」などの面で優れた作品を各分野ごとに1点ずつ来場者に投票してもらいます。なお、出展会社の社員・関係者は投票できません。

选考期間は、書店、取次、出版社、学者などの専門家が多く来場するブックフェア前半の2日間で、夕刻5時をもって締め切り、理事立ち会いのもとで集計。各分野ごとに最も得票の多かった作品に部門賞を授与します。さらに各分野の応募点数を比例配分した最高得点の作品にグランプリを授与し、その功績を称えます。

第2回目となる今年は、全部で26作品がエントリーし、有効投票総数は昨年を大幅に上回る273名に達しました。その結果、日本編集制作大賞のグランプリには(株)エディットが編集制作した「脳を鍛えるインド数学ドリル」(日東書院本社刊)が受賞。そのほか、一般書部門賞には(株)アーク・コミュニケーションズの「なるほど知図帳2007」(昭文社刊)、教材部門賞には(株)桂樹社グループの「Google Earthで地理学習」(理論社刊)、企業出版部門賞には(株)タカオ・アソシエイツの「BANDAI NAMCO FACTBOOK」(株)バンダイナムコホ



東京国際ブックフェアと同時開催された編集制作プロダクションフェア



協会ブースでは会員社がエントリーした「我が社の一冊」を展示し、その中から各分野ごとに来場者に優秀な作品を選んでもらう「日本編集制作大賞」の选考会を実施

◆ 日本編集制作大賞  
編集プロダクション業界の理解促進などを目的とする第2回日本編集制作大賞が決まった。グランプリは「脳をきたえるインド数学ドリル」▽一般書部門賞「なるほど知図帳2007」▽教材部門賞「Google Earthで地理学習」▽企業出版部門賞「BANDAI NAMCO FACTBOOK」。

「日本編集制作大賞」の開催と受賞作品を紹介する産経新聞の記事(2007年7月15日付13面「手帖」)

ールディングス)が、それぞれ選ばれました。(受賞作品は次ページをご覧ください)

なお、この「日本編集制作大賞」の結果は、産経新聞が文化面で取り上げ、各受賞作品を紹介。徐々に認知されるようになっていきます。

## ◆2007年版「編集制作業 経営白書」 得意先比率の3割が一般企業に

日本編集制作会社協会では、編集プロダクションの経営実態を把握するため、毎年、会員社にアンケート調査を実施し、「経営白書」を作成しています。今年は28社から回答が寄せられ、これを専門分野ごとに「教材」「一般書」「企業出版」「その他」に分けて分析を加えました。

それによると、売上高は全体平均で3億2,950万円（前年比0.1%増）、正社員数は17.9人（同6.5%増）でした。売上に関しては「減収」だったとする会社が増え、減収の会社は前年調査の22.6%から39.3%と増加しました。しかし利益面では増益だった会社が48.1%に達し、前年調査よ

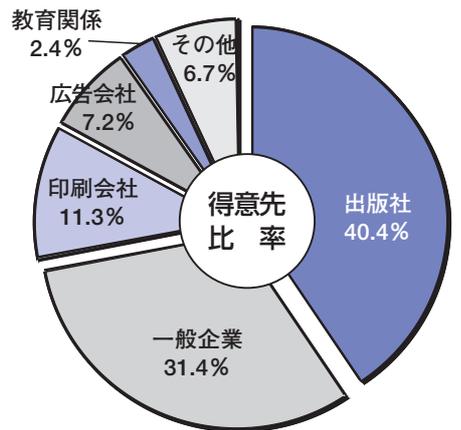
りも9.4ポイント増えています。

今期の業績見通しでは、増収を見込んでいる会社が28.6%、増益見込みの会社も29.2%にとどまり、いずれも過去最低となりました。

待遇面では、初任給が全体平均で19万8,152円に達し、過去最高となりましたが、昇給率は前年比15.4%減の5.5%、昇給額は同12.3%減の1万2,468円にとどまりました。

### ◆経営上の悩みは「人材の確保育成」

編集制作会社も最近では業務内容が拡大・多様化し、得意先比率に占める出版社の割合も年々減少しており、今回の調査では40.4%にとどまりました。代わって一般企業が過去最高

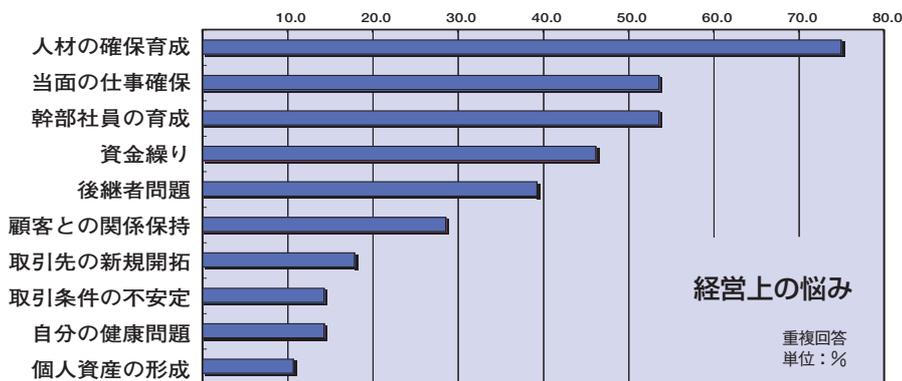


の31.4%を占めるまでになっています。ほかには印刷会社が11.3%、広告会社が7.2%でした。

経営上の悩みでは、「人材の確保育成」が最も多く、回答者の75.0%（重複回答あり）がこれを挙げました。次いで「当面の仕事確保」と「幹部社員の育成」がともに53.6%、「資金繰り」が46.2%となっています。

今後の方向性では、現状の編集プロダクションを挙げる会社が5割にとどまり、その他の業態を目指している会社が44.4%を占めています。また、編集制作業の将来に関しては、「発展する」「まあまあ発展する」と前向きにとらえている会社が36.0%にとどまり、過去最低となりました。

(分析/高雄宏政)



### 第2回「日本編集制作大賞」受賞作品



◆グランプリ (株)エディット  
「脳をきたえるインド数学ドリル」(日東書院本社刊)



◆教材部門賞 (株)桂樹社グループ  
「Google Earthで地理学習」(理論社刊)



◆一般書部門賞 (株)アーク・コミュニケーションズ  
「なるほど知図帳2007」(昭文社刊)



◆企業出版部門賞 (株)タカオ・アソシエイツ  
「BANDAI NAMCO FACTBOOK」(株)バンダイナムコホールディングス

## ◆ 版元や取次などから出版業界のスペシャリストを講師に招き 第4回「拡大編集セミナー」を11月8日(木)に開催

今年で4回目となる秋恒例の「拡大編集セミナー」が、11月8日(木)に東京・一ツ橋の日本教育会館で開催されます。今回は、集英社コミックス・コンテンツ販売部部長の柳本重民氏、日本出版販売www.推進部MD課係長の富樫健氏、小学館ネットメディアセンター“SooK(スーク)”支配人の大家正治氏、光文社出版局長の古谷俊勝氏を講師に迎え、販売の現場からマンガビジネスやオンラインマガジンの現状、企画のコツまで多岐にわたる内容を予定しています。

2004年から実施している「拡大編集セミナー」は、出版業界の第一線で活躍されているベテラン編集者や取次関係者などを講師に招き、出版業界の動向や課題、あるいは編集プロダクションに対する期待などを語ってもらい、編集プロダクションの進むべき指針を探ることを目的としています。

このため広く門戸を開放し、協会会員社だけではなく、全国の編集プロダクションにも参加を呼びかけています。昨年は地方の編集プロダクションや版元、印刷会社などを含め、100名近い方が参加しました。

### <拡大編集セミナーの概要>

- ◆ **場所** 日本教育会館(東京・一ツ橋) 7階 中会議場
- ◆ **時間** 13:30~18:00(受付開始13:00)
- ◆ **参加費** 会員3,000円 一般5,000円
- ◆ **定員** 150名
- ◆ **申込み** 案内用チラシに記載の申込み用紙を事務局までFAXしてください。

※掲載内容は発行時点のものです。今後都合により変更する場合があります。

### ◆ 第1部 マンガビジネスの今、そしてこれから

(午後1時30分~2時30分)



**柳本 重民氏**  
集英社 コミックス・コンテンツ販売部 部長

1953年静岡県生まれ。立教大学法学部卒業後、76年集英社入社。「りぼん」で4年間まんが編集者の基礎を学ぶ。その後、「週刊セブンティーン」で9年間芸能、スポーツ、ドキュメントを担当し、再びまんが編集に復帰して「ヤングユー」編集長。98年から特品販売部(現・コミックス・コンテンツ販売部)に在籍。さまざまな形でコミックス販売からデジタル配信まで、コミックス・コンテンツに対して読者の求めるあらゆる可能性を模索している。

### ◆ 第2部 書店活性化とポイント制

(午後2時40分~3時40分)

**富樫 健氏**  
日本出版販売 www.推進部MD課係長

1976年神奈川県生まれ。99年早稲田大学第一文学部卒業後、日本出版販売株式会社に入社。経営戦略室に配属後、営業推進室を経て、業界SCM構想「www.project(トリプルウィン・プロジェクト)」の立ち上げに携わる。現在、www.(トリプルウィン)推進部MD課CRM推進係長として、ポイントプログラムを活用したCRM戦略「Honya Club」を担当。優良顧客の囲い込みによる、書店店頭の活性化を目指す取り組みを推進している。



### ◆ 第3部 順調に拡大するオンラインマガジンの可能性

(午後3時50分~4時50分)



**大家 正治氏**  
小学館 ネットメディアセンター“SooK”支配人

1958年東京都練馬区生まれ。81年慶應義塾大学文学部国文学科卒業後、小学館入社。BE-PAL編集部、ビックコミック・オリジナル、ビックコミック・スペリオール、タイムの編集を経て、95年BE-PAL副編集長。98年ラビタ編集長代理。2000年より2006年までラビタ編集長。2007年3月より、ネットメディアセンター勤務になり、現在、小学館が運営するオンラインマガジン“SooK”の支配人を務める。

### ◆ 第4部 「知は、現場にある。」が企画のコツ

(午後5時00分~6時00分)

**古谷 俊勝氏**  
光文社 出版局長

1959年愛媛県生まれ。82年慶應義塾大学商学部卒業。同年光文社入社。「カップ・ビジネス」、「カップ・ブックス」編集部を経て、2001年4月光文社新書創刊とともに新書編集長。「知は、現場にある。」をキャッチコピーに編集長として『オニババ化する女たち』『座右のゲーテ』『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』『下流社会』などのベストセラーを世に送り出す。2007年より学芸編集長。2005年より出版局長も兼任する。



## Admission 新入会員社紹介

### 準 ピアールコンビナート 株式会社

住所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-7 半蔵門村山ビル4F  
TEL. 03-3263-5621 FAX. 03-3263-5623  
URL <http://www.prk.co.jp>  
代表者 代表取締役 橋爪清 設立 1976年11月15日 社員数 17名  
取引先 伊藤園、ロッテ、ナムコ、カルピス、NTTドコモ、大和証券グループ本社、(社)日本損害保険協会、ケルヒャー ジャパン、東急文化村、NHKグループ各社、朝日新聞他

特徴 社会と企業とのコミュニケーションのあり方を考える「評判づくり研究会」を主宰しているため、企業のコミュニケーション戦略策定の際、シンクタンクとして豊富な経験を持つブレインたちの活用が可能です。また、PRの機能である理解促進、信頼獲得に“好意獲得”を加えるコミュニケーション活動の仕掛けを得意とし、企業や商品のファンづくりの実績があります。さらに、NHKグループ会社とのコラボレーションを数多く手がけ、大型企画の実績を持っています。

## 一般書・企業出版合同部会 6/26

一般書・企業出版の合同部会が6月26日(火)18時30分から東京・四谷の「出島厨房」で開催されました。

当日は、「受注価格の下落にどう対応するか」をテーマにし、受注価格下落の実態とそれに対する対抗策、そして企業体質の改善などが、参加各社の事例研究の形で発表されました。また、編集制作料金についても活発な意見交換が行われました。



活発に意見を交わす参加者

## 第4回編集技術講座 7/20

今年4月から開講している第2期「編集技術講座」(実践編)の第4回講座が、7月20日(金)18時30分から東京・一ツ橋の日本教育会館で開催され、60名以上が参加しました。当日は第3回講座に引き続き、小学館出版局家庭編集部の小川美奈子編集長に講師を務めていた



## 中国研修旅行 8/31~9/5

北京ブックフェアと大連のDTP事情を視察する日編協主催の中国研修旅行が、8月31日(金)~9月5日(水)に催行され、理事長の細江弘司氏、組織委員長小林哲夫氏など6名が参加しました。中国は今、北京オリンピック、上海万博などの一大国際イベントを控えて活気に満ち、出版文化やDTP技術なども急速に発展しており、参加者は大きな収穫を得て無事帰国しました。



万里の長城

## 教材・デジタル合同部会 9/13

教材・デジタルの合同部会が9月13日(木)18時30分から東京・神田小川町の「IWAKURA」で開催され、16名が参加しました。当日は冒頭に、先に東京国際ブックフェアの会場で選ばれた第2回「日本編集制作大賞」の授賞式が行われ、細江弘司理事長から各受賞者に表彰楯が授与されました。その後、近況報告や情報交換などが行われ、終始、和気藹々とした雰囲気に包まれました。

## 経営研修セミナー 7/13~14

毎年恒例の経営研修セミナーが、神奈川県箱根の「箱根パークス吉野」で7月13日(金)~14日(土)に行われ、20名が参加しました。

セミナーは経営委員長の坂井一之氏が司会進行を務め、第1部では会員社の経営実態を調査した「経営白書」を報告し、経営課題について協議。第2部では会員社の事例研究を行い、トライアングルの西村典博社長とエディットの小林哲夫社長から、自社の業務内容などについて話を聞きました。

また、第3部では、「大いに語ろう~AJECの発展について」と題して、協会の法人化に向けて意見交換を行いました。その後、懇親会を行い、翌日は希望者によるゴルフコンペを開催するなど、会員の相互理解を深める行事となりました。



経営研修セミナー(上)と懇親会の模様

き、「原稿整理をする」、「判型と組みを決める」、「書籍の構成を決める」をテーマに講義を聞きました。

また9月14日には第5回講座が開催され、麦秋アートセンター代表取締役の竹村義久氏が「デジタル時代の校正の基本」と題して講義しました。

編集技術講座は下記表の通り来年3月まで行われます。受講を受け付けていますので、ぜひお申し込みください。



第3~4回の講師を務めていただいた小学館家庭編集部的小川美奈子編集長

回	開催日	講義テーマ	講師	場所
6	10/26	取材と原稿の書き方	武田 薫氏 (元報知新聞記者、フリーライター)	
7	11/16	デザイン・レイアウトの基礎(雑誌)	未定	日本教育会館 第5会議室
8	1/25	紙の知識		
9	2/22	印刷の知識と最新技術、製本の種類		
10	3/14	出版と法律		

- \*お申し込みはホームページ(<http://www.ajec.com>)に掲載している所定用紙、あるいは、①会社名、②参加者名、③受講回、④連絡先(TEL、FAX)を明記の上、メール([office@ajec.com](mailto:office@ajec.com))またはFAX(03-3296-0779)でお送りください。
- \*受講料は3,000円/人、当日の徴収となります。
- \*講義テーマおよび講師は本紙発行時点のもので、都合により変更となる場合があります。